



見沼小だより

平成28年度第7号

平成28年11月1日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」



当たり前の方が当たり前ができる

校長 大澤 淳

すっかり秋も深まり、朝晩の冷え込みは冬の寒さかなと感じるようになりました。校庭の木々も色づき始め、間もなく綺麗な紅葉が見られると思います。

先日、6年生は小学校最後の大きな行事、修学旅行に行ってきました。天候に恵まれ、2日間とも快晴の中、戦場ヶ原ハイキングや中禅寺湖汽船、東照宮など、子どもたちも紅葉の名所、日光を存分に満喫できたと思います。また、みんなで絵付け体験をしたり、お土産を買ったり、ホテルで友だちと一緒に過ごした時間など、本当に楽しそうで、たくさんの思い出を心に刻んでくれたと思っています。ホテルを出るとき、ホテルの支配人の方からこんなお褒めの言葉をいただきました。「私（支配人さん）が児童の皆さんにあいさつをした時に、みんな、真っ直ぐに私の目を見てくれました。このような素晴らしい学校はなかなかありません。久しぶりにとてもすがすがしい気持ちになりました。」と。本当に嬉しいお言葉でした。

前日、ホテルを利用するにあたって、支配人さんがお話の中で、「パブリックスペース」と言う言葉を使って公共の場、共用の場の過ごし方を教えてくださいました。それは、ふざけない事、大きな声を出さない事、他の人と一緒に気持ちよく利用できるように行動することなど、公共の場での礼儀を守ることのお話でした。これは集団生活をする時には「当たり前のこと」です。ですから学校でも日頃から同じことを言っています。今年の6年生も、多くの人が利用するホテルのパブリックスペースでしっかりと約束事を守ることができたので、それについても支配人さんからお褒めいただきました。

この修学旅行を終えて、こんなことを考えました。修学旅行や学校行事を計画するとき、常に心配や不安が先に立つのが教員です。この計画で大丈夫だろうか、安全は確保されているだろうか、必要なことが抜けていないか等々、心配は尽きません。一見するととてもマイナス思考かもしれませんが、でもそれがいいのです。心配だからこそ何度も検討して何度も見直して、これなら大丈夫と思えるまで考えます。そして事故や事件なく安全に行事を終える、これが「当たり前のこと」なのです。

子どもたちも、何か行事があると、それに向けて練習をします。本番で失敗しないようにたくさん練習をして、本番に臨みます。しかしできるかどうかはわかりません。練習のなかで当たり前のようになっていたことが、本番で当たり前のようになっていくのは、実はとても難しいことなのです。だからこそ学校では、毎日練習を積み重ね、繰り返し学習し、周到的な準備をして、継続することを大事にしているのです。

6年生のみんなが、「しっかりと目を見て話を聞くこと」、「公共の場で礼儀よく過ごすこと」ができたのは、日ごろから意識して心掛け、実践してきたからだと思います。これは6年生がこれまでの小学校生活の中でしっかり身に付けてきたことで、きっと他にもたくさんあると思います。また、これからの小学校生活、短い時間のなかですが、まだまだたくさんの事を身に付けて卒業してほしいのです。そして、「当たり前のことが当たり前ができる人」に成長してほしい。これが修学旅行を終えて思う、私の願いです。